

平成19年11月27日

2007-IV以降の変更事項について

◎ 新たな評価形質の追加等

「後乳頭の配置」及び「尻の幅（坐骨幅由来）」については、2003年10月以降（社）日本ホルスタイン登録協会により情報収集され一定量のデータが蓄積されたことから、評価開始に向けた検討を行ってまいりました。

既報のとおり2007年9月に行われたインターブルによるテストランに参加しましたが、その結果、国際評価上も問題のないことが確認されたことから、2007-IV以降これら2形質について評価を開始することといたします。

2007年8月まで評価を行ってきた「尻の幅（寛幅由来）」については、「尻の幅（坐骨幅由来）」の評価開始に伴い中止いたします。これにより、「尻の幅（坐骨幅由来）」の審査記録のない雌牛については、当該形質の遺伝的能力評価値は計算できなくなります。また、娘牛の「尻の幅（坐骨幅由来）」の記録が一定以上揃わない種雄牛についても遺伝的能力評価値が公表されません（現在供用されている検定済種雄牛（推奨されている総合指数上位40頭）については、坐骨幅由来のデータをもって公表の対象となります）。

なお、このことに伴い、家畜改良センターホームページ上の評価成績公表資料や牛群検定参加農家等関係者に配布されている乳用種雄牛評価成績（赤本）で用いてきた「尻の幅」については廃止し、今後混乱を避けるため「坐骨幅」の名称での表記といたします。